

すわ大昔サロン WA!

「すわ大昔フォーラム」から生まれた“学び合い”のWA! 話・輪・和

「すわ大昔サロン WA!」は、車座で行う学び合い・語り合いの場です。
前半は話題提供者からテーマ説明や解説を行います。
後半は話題提供者と参加者で双方向の意見交換を行います。(前半のみのご参加でも可能です)
専門家や研究者でなくても大丈夫! 自由な発想で、すわの歴史・文化・伝統・自然などに
思いを馳せてみませんか? お気軽にご参加ください。

テーマ 諏訪高島城の遺物

— 時代に流され仏法紹隆寺に移した「3つの厨子」^{ずし} —

明治維新の際、高島城から仏法紹隆寺（諏訪市四賀）に3つの厨子が移されていたことが昨今同寺の古い記録からわかりました。その内の2点とみられるものは同寺で確認されましたが、1点は行方がわかっていません。

3つの厨子が高島城から移された背景には何があったのか。藩主家の祈願寺であった仏法紹隆寺と高島藩は幕末の頃どのように関わっていたのか。

確認ができていないもう一つの厨子は今どこにあるのか。

数少ない高島城の遺物の行方の謎について、一緒に考えてみませんか?

日時 令和7年11月24日(月・祝)13:30~15:00 (開場13:00)

会場 諏訪市博物館(諏訪市中洲171-2 諏訪大社上社本宮前) 学習室

話題提供 岩崎 宥全さん(仏法紹隆寺) **進行役** 高見 俊樹(大昔調査会)

高島城の遺物

～時代に流され仏法紹隆寺に
移された3つの厨子～

残された3つの厨子の謎

諏訪市博物館「諏訪のお殿さま展」



幕末の住職「宥中」愿由来記



宥中 仏法紹隆寺第34世住職

朝日村 上條家出身
上條宥中→松橋宥中
智積院家老職

神仏分離を差配
藩主の信任篤く、また優秀であり、
近代仏法紹隆寺の基盤を整えた

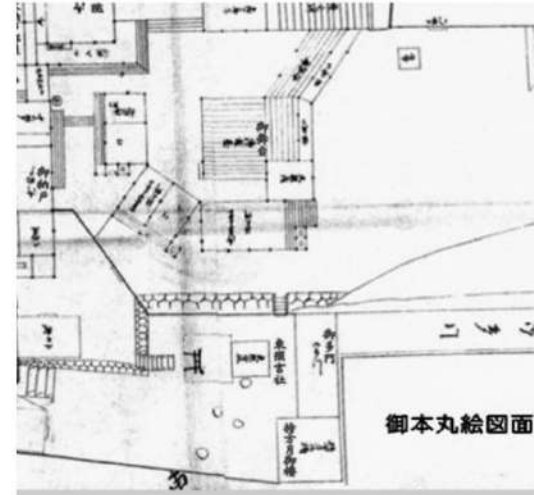
愿由来記



8月御本丸安置の東照宮境内へ移す

明治2年 神仏分離に引き続き
東照宮を移転していることが分かった

この後の記述に「神仏境界の東照宮」とあり、神なのか仏なのか判断が付かなかったため、仏側に移転



愿由来記

三ノ丸御祝庚申堂当院へ遷座

大黒天大(楽?)梵天
後(?)宮殿御納



記録に残る3つの厨子

御本丸 東照宮

三之丸 庚申堂

大黒天・大梵天 後(?) 宮殿

大黒天厨子



什物帳の記載



□ (?) 天ノ後 宮殿計
御丈宮殿共三尺
寄付主従四位諏訪忠誠公
作者 立川和四郎

藩からの手紙



東御殿へ祝置之
大黒天之御厨子計
貴寺へ御納被成候旨
従四位様より被遣候間

一 明治五壬申八月六日 手紙至来
以手紙致啓上候 然者兼而東御殿ニ御祝置之 大黒天之御厨子計
貴寺江御納被成候旨 従四位様より被仰遣候間 為持遣申候 宜御
取計可被成候 右得貴意度 如此御座候 以上
八月六日 加藤平四郎
佛法寺様 有賀 一郎

御手紙致拝見候 然者東御殿ニ御祝置之大黒天之御厨子 従四位様
より御奉納被成下候段 難有奉存候 御序之刻宜敷被仰上被下候
以上
八月六日 佛法寺
加藤平四郎様
有賀 一郎様
(忠誠公忠礼公御祈祷記)

大黒天厨子

立川和四郎作

立川流の図面によく似た意匠のものが確認される

立川富昌の作であると推定される

大黒天はなくなっている（台所の神様・焼失か？）

移転してすぐに清滝権現の厨子として使われる

4



大黒天厨子の裏

明治5年 愿由来記の年号と一致

奉移納清滝大神宮殿一宇
従四位源朝臣諏訪忠誠公

移納奉る 高島城から仏法紹隆寺へ

寄付主は諏訪忠誠公

移転後は清滝権現の堂宇として使ったの
であろう

清瀧権現



三之丸 庚申堂



5

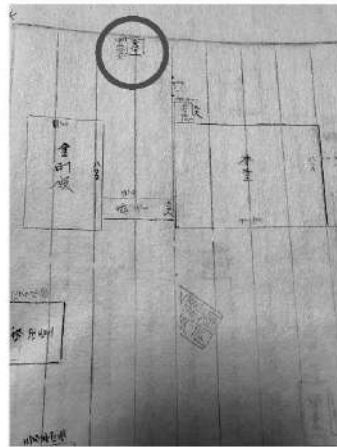


愿由来記



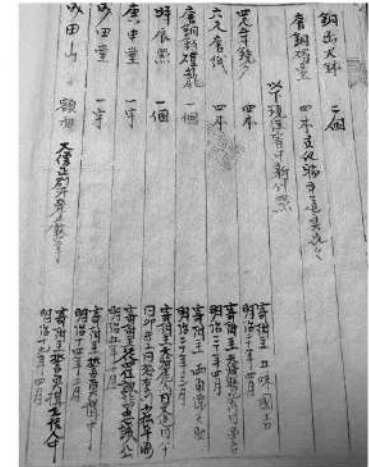
什物帳 境内図

庚申 四尺四面



什物帳 庚申堂一字

庚申堂 一字
寄付主從四位諏訪忠誠公
明治五年十月



庚申祈禱の記録

・忠恕公 (天保十年)

一 大殿様庚申御信仰二付 御花畑へ文政七申年御勤請御座候而
同八酉年二月二日 初庚申二罷出相勤 夫より年々初庚申二御祈
願相勤来候得共 御代替之義二付伺候処 御在命之義二候へ者
伺二ハ及不申 是迄通相勤可然由 御月番牛山彦左衛門殿被申候
故 是迄通年々初庚申二罷出 御祈願相勤可申候事 (B-51)

一 明治四辛未年九月十四日 御家令中より手紙至来

與横来廿四日被為遊御発駕候二付 御旅中御守可被差上候 尚又申達義も有之候間 明十五日役僧一人御差出可被
成候 已上 九月十四日

佛法寺

千野種波

即刻返書 例之通御旅中御守相認 聖使僧を以差上申候 尚又御達之義 ハ 従四位様より御沙汰二付 庚申宮貴
寺境内之地江御遷坐之上 御預り被成度二付 此致御達申候 依之何連明日場所柄万事可申上候 明十六日役僧差
出候 東照宮脇二寺内鎮守清隆宮有之 被廢候二付 其御跡鎮座之由申上候処 到而宮敷存候得共 兼而従四位様
御境内之様子御承知候事改載 御差區無之 其寺江申上候得者 可然様御執計可思召候

然者来廿一日幸申日二付 遷座仕度候 承知之挨拶也 不残西御殿より被持遷 遷座可致候間 御時節柄二付 御
入費之義ハ御寺二而御願可被下候 是又承知之段申入候 然処御発駕前御座候而御用多 依之秋後迄延引之御沙汰
二付 九月廿九日手紙至着

来月朔日より 庚申之御宮御送り可申手順二候間 右之御心組二御承知被下候様致度候 此段申入候 已上

九月廿九日

佛法寺

加藤平四郎

即刻返書 朔日雨天延引 二日以使僧御宝坐御受取申候 直様人足二而

三日迄二仕上仕候 御遷座之上 法樂修行御守 方々様江差上申候

(忠誠公忠礼公御祈禱記)

庚申様



本尊 青面金剛という仏様
 仏さまの頭上 左右に月と太陽を配す
 足元に三猿を配す
 病魔や悪霊を退ける仏

庚申信仰



三尸の虫が庚申の夜に人間の体内から抜け出し天帝に人の悪事を告げに行く
 上シは頭
 中シは体
 下シは下半身 に住み着いている

この虫が夜抜け出ないために夜通し起きている

娯楽的要素も・・・

庚申堂の厨子の扉



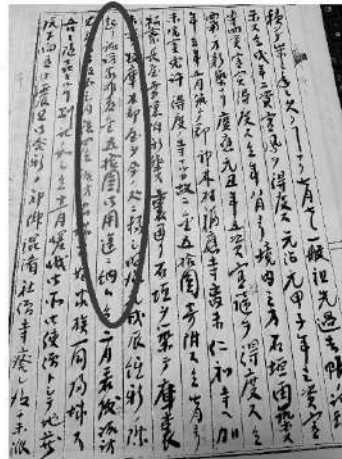
2つの厨子が移された背景

東京住居命ぜられ
 近く立ち除き
 前代未聞一件に候



2つの厨子が移された背景

明治元戊辰維新の際起り
諏訪家非常金五十圓御用達に納む



東京移住に付き寄付した他の遺物

弘法大師真筆御名号

弘法大師袈裟

怒り天神？

弘法大師袈裟



一 明治四辛未年八月廿四日 從五位様御家從より手紙到来
 御用之向有之候間 一両日中ニ御參殿可被成候 以上
 八月廿四日
 追而 御代僧無之 御自身御出可被成候様存候 以上
 佛法寺様 前田 貞
 菅沼 淡

即刻返書 翌廿五日自身出向候処 前田貞・馬場郷衛被出対面候処 從四位様より御沙汰ニ付 從五位様より御当家御秘蔵之 弘法大師御直筆御名号一幅黒塗之箱入 大師御法服七条御袈裟 其外御不老返包箱入 縁起一通 御宗旨之趣 御因縁御寄附被為遊候間 御渡申上候 難得御名号・御法衣共給之 冥加之至 当院之什宝ニ相満申候 此段從四位様從五位様江宜敷御沙汰 御礼被仰上可被下候様口述 役僧為相持罷歸ル 難有御事也 ・幸三懸第初行 護摩三日目ニ付 金剛殿江相懸 別事修行みたし候 已上 (忠誠公忠礼公御祈禱記)

弘法大師衣 由緒

宮中より弘法大師の御衣料が高野山に下賜される

高野山で弘法大師の衣を仕立て、御廟のお大師様に奉納

翌年、弘法大師の御身代わりのお坊さん「法印」が1年着用

無量光院 玄昌 ←武田家出身

武田の縁をもって磐城平藩 内藤帯刀忠興に贈る 旗本武田家再興

内藤帯刀忠興の娘が諏訪に嫁入り 大社へ奉納？(大社什室に弘法大師衣あり)

諏訪家より弘法紹隆寺へ

実はこの衣 めちゃくちゃ重要です！

弘法大師真筆 御名号



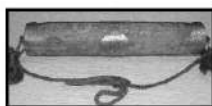
怒り天神

忠誠公寄進

松平定信が孫 忠誠に贈るか？



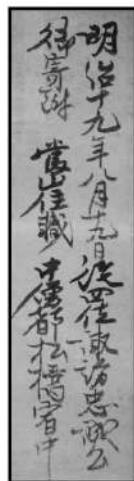
清昌院遺物 筒守り



清昌院遺物 弓 (箱のみ)



その他にも多数



2つの厨子

東御殿大黒天厨子

三之丸 庚申堂

東照宮は . . . ?

東照宮について 願由来記

明治13年3月
 諏方従四位公より神仏境界御預りの東照宮を
 諏方頼崇邸内へ遷座す

諏方頼崇 諏訪上社大祝家

宮田渡の大祝邸に移された!!!



徳川家康6男 松平忠輝・・・



11

2025年(令和7年) 11月16日(日) 第20679号 [11頁] 昭和41年3月14日第3種郵便物認可



寺ガチャでゲットできる仏像のアクリルスタンド、後方レリアアイテム

片倉館(諏訪市湖岸通り4、片倉雄一郎館長)は15日、「片倉館黄葉まつり」を同館で開いた。来場者たちは見物を迎えたイチヨウをめでながら、庭園に並んだ各種出店やイベントを楽しんだ。「雪見」「黄葉まつり」は2015年の試行を含め11回目。庭園には洋菓子、パン、野菜、クラフト小物など、1日の販売アースを並べた。旬

仏様をより身近に

佛法紹隆寺に「お寺限定ガチャ」登場

○：諏訪市四賀桑原の佛法紹隆寺に、諏訪地域では珍しい「お寺限定ガチャ」が今月からお目見えした。同寺に収蔵される仏像5種類を高さ約5センチのアクリルスタンドにしたもので、16日(日)まで開く「紅葉三山めぐり」の来訪者の目にとまり、コインを投入する人も少なくない。

○：名付けて「らみたて!!仏のたまご」。「仏様、仏教を愛しみながら身近に感じてほしい」と岩崎智全住職(47)が提案、市内の業者に発注した。アイテムは、明治初期に上社神宮寺普賢堂から移された諏訪大明神本地

○：レリアアイテムは、目にするこぼない普賢菩薩騎象像の胎内仏「前宮本地仏」。これとは別に用意したシークレットアイテムは「当たったら、笑ってしまおうも」と同住職。1回500円。

「何が出るか分からない面白さを味わいながら、寺のご縁を深めてもらえたら」と話す。

見頃のイチ

片倉館で



発行所
 〒312-0016 諏訪市豊田文出
 諏訪市民新聞社
 編集・発行人 藤原 建
 電話 代表 52・3400
 FAX 57・0117
 www.shimicoin.jp



厨子の再発見を伝える新聞記事

高島城本丸絵図

